

e-ビーフNEWS 北の牧場から

May 2014

発行
特定NPO環境リサイクル肉牛協議会
北海道帯広市西23条北2丁目17-6
マルハニチロ内

フキノトウやつくしんぼうが、顔を出し始めました。

あわい緑黄色の小さな花をもつフキノトウは、雪解け十勝の春を象徴しています。皆さんには、この図柄は、ホワイトチョコレート(六花亭)の包装紙かな。そんな帯広は、今日25℃の夏日に。数ヶ月前の厳寒の殺伐とした地が、いっせいに花のつぼみが膨み、みどりの新鮮パワーで満ち溢れています。スイセンやつつじが破裂するように、花卉を大きく広げ彩り始めました。朝4時薄日とともに、鳥たちが鳴きながら飛び回り、早くから起こされます。

巷では、動きが激しくなってきましたね。日豪のEPAやオバマ戦略のTPPと三文字アルファベットが勝手に踊り始めています。早期決着を焦るばかりに、国民の基本的な権利「食べる」を他国に売り飛ばさなければいけません。また、生産者に「アメ」をやる激衝緩和政策でたっぷり補助金を出すことは、やめてほしいですね。おちる高さが一段と高くなる傾向があるので、ま、政治・政策はともかく、スマートな生産者には、より生産技術のイノベーションが要求されてきています。

鶏・豚生産現場では、ウィルスとの戦いが激しさを増しています。牛でも安心のできない、薄氷の状態です。原点に戻り、「牛つくり」を考える良い機会かもしれません。



NEWSばか読み

- 農水審議会 酪肉近代化基本方針の見直しに着手
3/25:酪農落ち込みが深刻
- ほくれん飼料 4-6月値上げ
3/25:時期を見ているな
- 日本政策金融公庫 ABL契約協定拡大
3/26:素牛相場に拍車
- 農水 飼料米規格設定へ
3/27:玄米・粳米・合格・規格外・15%水分以下
- アークス 東北量販吸収・勢力拡大に
3/28:2大勢力にくさびを打てるか
- 消費税8%スタート4/1:うそであってほしい
- IPPC(気候変動に伴う政府間パネル)温暖化リスクについて
4/1:2℃で穀物減収
- 国際司法裁判所 調査捕鯨中止命令
4/1:クジラに鮭食われたくないな
- 米国 家電量販店リストラ
4/4:昔ウォールマート、今アマゾン
- 農水 農業界と経済界の連携強化模索4/7:
- 協同・日配経営統合へ

- 4/7:飼料業界もTTP見据えて業界編成へ
- 日豪EPA大筋合意へ
- 4/8:きたきた牛肉関税半額 農水目標値達成
- 乳価値上げに4/9:ストップ・ザ・離農
- 世界のコメ生産 昨年度最高7億4千万t
- 4/11:輸出入は4千万t弱 少ない
- 十勝管内 昨年酪農 55戸離農
- 4/11:後継不足深刻
- 鶏インフルエンザ 熊本で発生11万羽処分
- 4/15:韓国からの野鳥媒体の可能性
- キリン 中国で豪州産牛乳販売4/15:
- 日本人口の減少 実労働人口8千万切る
- 4/16:65歳まで換算するの
- WTO(世界貿易機構)昨年中国が一位に
- 4/16:おめでとう 4位の日本から
- 飼料米の流通価格 現地渡し3万円輸送費3割程度負担
- 4/17:
- 豚PED感染拡大
- 4/21:ビック生産者・流通者に警告 豚相場高騰
- 北海道畜産公社 十勝工場拡張15年度に450頭/日
- 4/24:牛肉輸出拡大策

東京直近NEWS (3/25ShREPORT)

ホルス

5月の建値相場急騰。各産地枝@800超えの状況、前月より大幅な上げ幅。頭数の不足と輸入アイテムも不足していることから、引き合いはそれなりに強い。部分肉の値上げ交渉すすめるも、枝肉準じた価格までは値上げが追い付いていない状況。

パーツは相変わらず上位部位の販売低迷(ロース、カタロース)。カタロースは一部赤身部位と同単価、もしくは単価逆転する場面も。バラ系は好調も上位部位や赤身の単価をカバーするまでには至らず。

年内は頭数の減少傾向が強いが、GWと増税で連休後は相場一旦落ち着くのではとの声もあり相場に注視。

経産

相場は相変わらず高値安定維持。3月は年度切替と北海道内は根釧地区の離農が進み離農牛発生で一瞬頭数は増。頭数は増頭出荷されるも相場は年度内最高値更新。買い手の購買欲は依然強く、相場冷める気配弱い。各メーカー、牛正肉の在庫も非常に薄い状況で1ヶ月分の在庫がないのが実態では。

左先生の畜産学研究NEWS

新聞は連日TPPの日米交渉の成り行きに注目しています。全米豚肉生産者協議会等と日本の農業団体など、背景の政治課題として決着の行方は気になります。名を捨てて実を取った豪州のEPA交渉とは対照的です。23日のオバマ訪日でもまだ合意に至っておりません。新年度で消費税が上り色々な品目が軒並み値上げとなりました。今年一年の学会・研究会開催は以下の通りです。これらのうち情報が入手でき、起承転結の明確なものを中心に紹介します。

1 今年の学会・研究会予定

2014.2.28 平成25年度畜産関係新技術発表会 札幌北農ビル19F
 2014.3.26 第74回飼料懇談会 つくば国際会議場「エポカルつくば」第VII会場
 2014.3.26 日本学術会議シンポジウム つくば国際会議場中ホール
 2014.3.27-29 日本畜産学会第118回大会
 2014.3.29 日本産肉研究会第13回学術集会・日本食肉研究会第55回大会合同大会
 2014.5.17 平成26年度家畜栄養生理研究会 春季集談会

2 畜産関係新技術発表会は道畜産技術連盟が道内試験研究機関等の取り組んだ新技術等を毎年札幌で発表会を開催しています。発表12課題中3題が黒毛和種関係です。道総研の畜試が研究母体で道内産の基幹種雄牛「勝早桜5」の作出や、繁殖雌牛の育種価や繁殖台帳を基にした改良システムを開発し、子牛出荷体重の遺伝効果と枝肉重との間に+0.62の遺伝相関が見られています。

3 第74回飼料懇談会は、資料によるとテーマは「乳・肉牛飼養管理技術の最近の話題について」です。1) コーネルシステム改訂版の特徴について(日大: 梶川博氏) 2) 飼料用稲等水田飼料を活用した乳牛飼養技術(三重県畜研: 山本康也) 3) 肉牛における飼料要求率の改善と給与技術(木村畜技士事務所: 木村信熙氏)についての話題提供がありました。改訂されたコーネルシステムにはルーメン内微生物タンパク質の分解速度の評価に特徴があります。又農水省公表の飼料用米の給与マニュアルでは、泌乳前期牛や育成牛にも籼米や玄米の給与がイネWCSとの併給で記載されています。一方肉牛では、攻めの技術として飼料利用性・飼料要求率の改善が大切であることが強調されています。

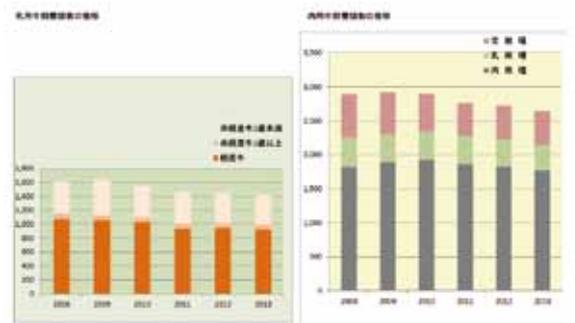
4 日本学術会議シンポジウムは、日本畜産学会第118回大会の一環として開催され、テーマは「食肉をつくる細胞とその制御機構」-筋肥大と脂肪蓄積のメカニズム解明に向けた新展開-で2題の基調講演と6題の一般講演がありました。基調講演では、筋肥大と修復における衛星細胞の役割とミオスタチンによる筋肥大と代謝の調節などの役割が説明されています。又一般講演では、間葉系幹細胞におけるテコリン糖鎖の多寡が脂肪細胞への分化に関わっている可能性の知見が紹介されています。

畜産統計資料

家畜の飼養戸数・飼養頭数

年次・全国農業地域	乳用牛					肉用牛				
	飼養戸数	飼養頭数			飼養戸数	飼養頭数				
		計	2歳以上	2歳未満		計	肉用種	乳用種	交雑種	
	戸	1,000頭	1,000頭	1,000頭	戸	1,000頭	1,000頭	1,000頭		
2008	24,400	1,533	1,075	77	458	80,400	2,890	1,823	431	636
2009	23,100	1,500	1,055	70	515	77,300	2,923	1,889	412	622
2010	21,900	1,484	1,029	66	455	74,600	2,345	1,924	421	547
2011	21,000	1,467	933	67	468	69,600	2,783	1,888	412	483
2012	20,100	1,449	943	70	437	65,200	2,723	1,831	393	499
2013	19,400	1,423	923	69	431	61,300	2,642	1,769	375	498
2013/2012(%)	97	98	96	99	99	94	97	97	98	100
北海道	7,130	807	485	37	285	2,820	516	180	336	116
東北	2,990	113	77	7	30	16,800	359	278	81	50
北陸	414	16	12	1	4	494	24	11	12	9
関東・東山	3,930	199	145	11	44	3,830	307	155	153	112
東海	877	59	45	2	12	1,390	135	75	60	50
近畿	668	31	23	1	7	1,940	86	70	16	12
中国	940	51	35	2	14	3,440	128	74	54	35
四国	464	22	16	1	5	903	65	28	37	29
九州	1,880	120	81	7	32	28,900	947	823	124	84
沖縄	80	5	3	0	1	3,010	76	76	1	0

資料:農林水産省統計部「畜産統計」より



活動のお知らせ

- 6/7(土)10:00～ ランチョ・エルパソ(帯広市)
環境リサイクル肉牛協議会 NPO法人第7回総会・飼養技術研修会が開催されます。
- シンポジウム2014決定事項
講演者が決まりました。基調講演(独)農研機構・畜産草地研究所家畜飼養技術研究領域 樋口幹人主任研究員
帯広市が共催団体に決定:会場「とかちプラザ」の優先利用と利用料金の減免確保しました。
- 農林水産省 平成26年度エコフィード緊急増産対策事業実施主体に応募しました。
- 4/24(木) カルビーポテト(株)帯広工場のポテトピール検討会を開催しました。
- 北海道肉専用種枝肉共励会実行委員会、北海道アンガス牛振興協議会第20回総会出席しています。